

2016年

携帯サイトへGo!→  
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

## 梅雨

6月といえば、梅雨ですね。6月は日本列島では長雨の季節ですが、地球規模で見ると、北半球では夏至を迎える季節であり、高緯度地方に位置して冬季の日照期間が短い西欧諸国では、「ジューン・プライド」の言葉からもうかがえるように、1年のうちでもっとも太陽に恵まれる快適な季節です。

都会で電車通勤をされている方にとっては、いやな季節かもしれませんが、日本各地の農村にとってはまさに恵みの雨です。この長雨がなければ、私たちが食べるご飯のもとである水稲は育ちません。

西日本各地では梅雨明け間近の集中豪雨が、毎年各地に甚大な水害をもたらしますが、その大雨こそ、西日本地方の年間降水量の約4分の1を占めており、夏の大切な水資源となっています。

日常生活においても、じめじめとした高温多湿の気候といかに折り合うか、その知恵が日本の伝統文化の中には詰まっています。着物などを収納する伝統的な桐箆笥、畳や高床建築や校倉造りなど、防湿の工夫が日常生活においてはもちろん、多くの文化財の保存のうえでも積み重ねられてきています。

私たちも、東アジア特有の梅雨という気象現象をプラスにとらえて、この季節を楽しめるといいですね。

## 公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

### “目標をもって学習する”

#### 「見通しの共有」が目指すもの

家庭学習の立場に立つ公文式は年齢や学年の枠にとらわれません。九九があやふやだった4年生がすっかりマスターし、意欲をもってかけ算に取り組んでいる。その隣で、別の4年生が、中学校で習う方程式の問題に挑戦している・・・私たちは両方に、心からの敬意をもって、認め、ほめ、励まします。それぞれが自分の目標に向かって、自分のペースで伸びようとしている姿こそが尊いからです。

そして私たちは、その「認める、ほめる、励ます」を、抽象的なわかりにくいものにしないために、一人ひとりの目標と、そこに至る見通しをその子と共有するようにしています。

学習する側と指導する側が、目標と進み方の見通しを十分に理解しあって進めていく教育。そこには無理な押しつけもムダな足踏みもありません。保護者の方とも、ぜひ見通しを共有させていただきたいと思っております。

## 2016年 6月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

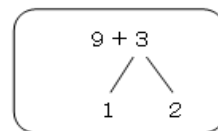
本市場教室日□

横割教室日△

### 3A教材 たし算が無理なく学べる工夫

小学校では、たし算は次のように計算します。たとえば、「 $9+3=12$ 」であれば、

- ① 9はあと1で10になる
- ② 3を1と2にわける
- ③ 9に1をたして10にする
- ④ 10と2で12になる



このように、小学校ではいくつかの手順を踏んで計算しますが、生徒によってはこのような複雑な考え方を理解するのは容易ではないようです。

一方、公文式ではたし算までに、数字の読み・書きを通じて数の並びの習熟を目指し、その力を使って「次の数」から「たす1」、「次の次の数」から「たす2」、「次の次の次の数」から「たす3」までを導入します。上記の「 $9+3=$ 」という計算も、「9の次の次の次の数だから12」というように、複雑な手順を踏まずに計算することができます。

このようにすることで、小学生はもちろん、低年齢の生徒でも、無理なくたし算ができるようになるのです。

「宿題、やった？」 「あっ、まだだ！」

さあ、このあと、どうしていますか？そうして、どうなりますか？

上手にリードできて、さっさと宿題を終わらせることができているのならば、よいのですが……。

「えっ、またなの！宿題は、昼のうちにやっつくって約束したでしょ！」や、「いちいち言われないとだめなの！お母さんだって忙しいんだからね！」なんて言い始めて、悪くすると、泣きながらなんてことも……。

どうしたら、さっさと宿題を終わらせることができるのでしょうか？少しばかり、今行っていることを離れて、他人の目で見返してみましよう。

「あっ、まだだ！」って、お子さまが答えたとき、お子さまは、「しまった、やらなきゃ！」と思っています。この気持ちを生かせばいいのです。

もちろん、お母さんの気持ちは、そうではないでしょう。「いい加減にしてよ！宿題くらい言われる前にしておいて欲しいな！」でしょう。でも、お子さまは、「やらなきゃ！」と思っています。

だから、「宿題と鉛筆を持っておいで」と、持ってこさせます。

そうしてから、「どこ？」「できる？」と問いかけます。できないようなら、お母さんが解いてしまいます。

どこを見て、どうやって解くのかをブツブツと独り言のように言いながらです。

教えようとしたり、ヒントを出そうとするよりも、早く終わらせることができるのです。

もちろん、式や答えを書くのは、お子さまです。

途中から、自分でできると言うようでしたら、もちろんしてもらいます。

早く終わらせることができれば、力になります。いかがでしょうか…。

「いつまで、どこまで、公文式を学習すればいいんですか？」とおたずねを受けることがあります。

これは公文式の本質にせまるとても難しい問いかけです。

良い暮らしをしていくためには良い学校に行って、良い就職をしなければならないと一般的に思われています。

また、そのためには勉強ができなければいけないと思われています。

良い暮らしって、幸せな暮らしってどんな暮らしなのでしょう？

実は、学習そのものが生きるということの実践であり目的です。

それを手段としてとらえるところから、さまざまな問題が発生しています。

今まで多くの事例を見てきましたが、例外なく学習活動が円滑になると生命活動（生活）が円滑になってきます。

人間にとって「生きる」ということそのものが、学びの連続によって支えられているからだと思えます。

高校、大学に進学するという目的で受験勉強をする。また、進路を決めそれを実現するために勉強する。

社会人になるには社会人に必要な勉強をする。親になるには親になるための勉強をする。

健康に過ごすためには、病気になるための勉強をする。

こう考えていくと人生これすべて勉強の上に成り立っているといっても過言ではありません。

だから、記憶力の良い子どもの頃に勉強する力を身につけておればこそその世界が、そこにはあるのではないかと思います。

人間は、本能的にみれば動物です。

動物的欲をコントロールできてこそ、人間といえます。

人間性を引き出すことそれが教育です。

「公文式をいつまで学習するか」ではなく、「何のために公文式で学習をするか」だと思います。

そう考えると、子どもの頃に公文式で勉強が好きになることは、人生という単位で大きな意味を持ってきます。

「勉強が好きになる」このことが公文式で学習する目的であればこそ、結果として向上心という言葉があるのです。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします。6月分の会費引き落としは5月30日(月)です。よろしく願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。